

地方都市圏間の圏際地域に関する考察

豊橋技術科学大学 正 員 青島 縮太郎
 豊橋技術科学大学 学生員 〇温品 誠 二

1. はじめに

昭和52年に策定された第3次全国総合開発計画では、全国的に地方部への人口の定着化を促す意図のもとに、日常的生活圏を単位とし、各県一圏域を原則としたモデル定住圏を指定した。また、それ以前には、同様の意図のもとに、広域市町村圏の圏域設定も行なわれている。これを受けて、愛知県においては、14の広域市町村圏、東三河モデル定住圏が設定され、これらの圏域を対象とした地域整備が行なわれている。

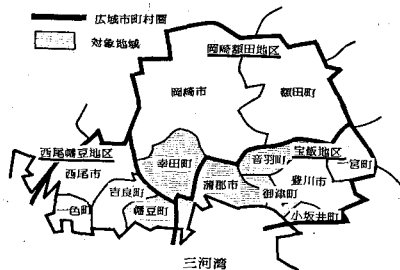


図-1 対象地域の概要

地方都市圏整備計画では、まず、核となる都市を設定し、それを中心として、その影響範囲で各種地域整備を進めることになっている。そのことにより、圏際に位置する地域において、どのような状況が生じているのであろうか。本研究では、図-1に示す、宝館地区広域市町村圏、西尾幡豆地区広域市町村圏、岡崎額田地区広域市町村圏の3市町村圏の圏際に位置する蒲郡市、幡豆町、幸田町、音羽町、御津町を事例としてとりあげ、主にその地域の交通に着目した分析、考察を行うこととする。

表-1 対象地域の各種指標 (55年国調より)

対象地域	人口 (人)	夜間人口 / 就業人口	産業構成 (%)		
			1次産業	2次産業	3次産業
蒲郡市	85,294	1.00	7.04	46.5	46.4
幸田町	26,163	0.85	13.5	51.4	35.1
幡豆町	13,591	0.75	10.8	49.4	39.8
音羽町	8,151	0.74	12.0	49.5	38.5
御津町	12,942	0.76	19.9	38.7	41.5

2. 圏際地域の人口構造の変化

各市町の指標として、人口、従業就業人口比率、産業別人口構成をとりあげ、表-1に示した。これによると、蒲郡市以外の4町は、昼間の人口に対し夜間人口の多い地域となっている。また、産業別人口構成によると蒲郡市は、相対的に3次産業の占める割合が高く、この地域における、消費的中核都市になっていることがわかる。また幸田町、音羽町、幡豆町では、2次産業が中心となっており御津町については、1次産業の占める割合が最も高い地域である。

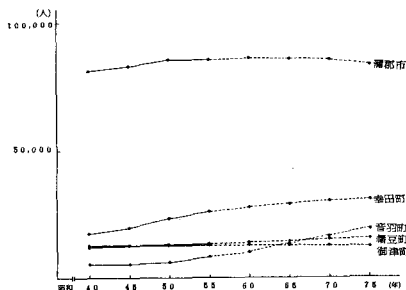


図-2 対象地域の人口の推移

対象地域における人口の、将来にわたる推移については、図-2に示すように、幸田町、音羽町を除けば、他の市町は、全体的に横ばい状態か、あるいは、とくに蒲郡市では、減少傾向を示している。この幸田町、音羽町における人口の伸びは、大規模企業の進出、それに伴う宅地開発の影響によるものである。なお、60年～75年の将来人口の予測は、コウホートモデルにより行った。

3. 交通から見た圏際地域特性

3-1. 自動車ODから見た特性

図-3は、昭和55年の道路交通センサスにより、対象地域間における希望路線図を、トリップエンドで表わしたものである。これによると、蒲郡市は、豊橋市、幸田町、岡崎市に強い結びつきをもっており、幸田町は、蒲郡市との結びつきは多く見られるものの、全体としては岡崎市が圧倒的である。また、音羽町については、豊川市との関係が強く、御津町は、豊橋市、豊川市、蒲郡市三方への均衡的な結びつきがあり、幡豆町では、蒲郡市とのつながりが強い。

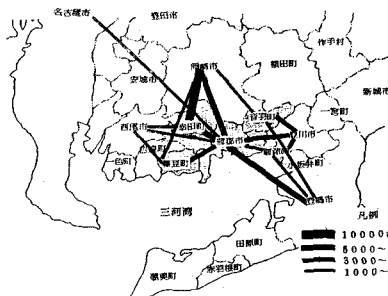


図-3 対象地域を中心とした希望路線図

さらに、自動車ODについてその経年変化を表わしたものが図-4であり、昭和65年、75年の予測値は、建設省の予測値を用いた。これを見ると、蒲郡市周辺地域では、今後、次第にその圏域中心都市への依存関係を強めていくことがわかる。つまり、幸田町は岡崎市へ、御津町は豊橋市へ、音羽町はさらに豊川市へと依存関係を強めていく。

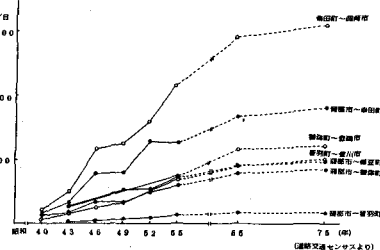


図-4 自動車ODの推移

3-2. 通勤流動から見た特性

図-5は、対象市町について、昭和55年現在の通勤流動を表したものである。これによると、全体的に蒲郡市以外の周辺4町では流出超過であり、蒲郡市では、流入人口が多くなっている。また、個々に流出、流入を見てみると、蒲郡市は、豊橋市、名古屋、岡崎市、幸田町への流出者数が多く、これに対し、流入については、豊橋市からの流入者数が、とりわけ多い。また、幸田町は、岡崎市との通勤流動が顕著である。そして、幡豆町については、西尾市への通勤依存が蒲郡市に次いで多くなっており、流入は、あまり見られない。音羽町、御津町については、それぞれ豊川市、豊橋市への通勤者数が多く、蒲郡市との関係は、御津町が少し見られるものの、音羽町については、ほとんどない。

4. まとめ

以上、人口構造、自動車OD、通勤流動の3点から、愛知県蒲郡市および、その周辺4町の圏域地域の特性を分析してきたが、その結果、蒲郡市周辺のほとんどの町は、いずれも広域市町村圏の核となっている都市への依存関係を強めていく傾向にある。そして、従来一定の中心的役割を果たしてきた蒲郡市は、周辺地域に対する影響力の低下、および、人口減に見られる都市力の衰退が想定される。これに対し、今後、なんらかの計画的対応が必要であると思われる。

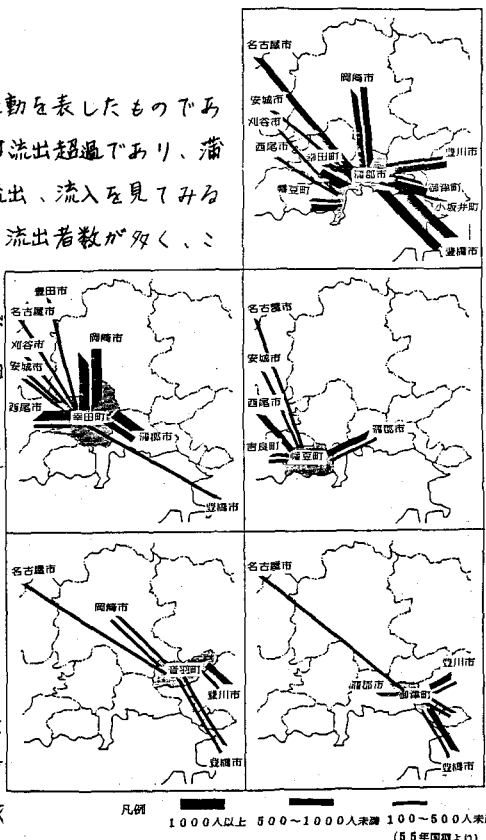


図-5 対象地域を中心とした通勤流動